

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果報告（藤久保小学校）

1 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

○全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。

○学校における個々の児童への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。

○そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査結果（小学校6年生）

（1） 学力（平均正答率）

単位（％）

	全国	埼玉県	藤久保小
国語	66.8	68	68
算数	58	58	64
理科	57.1	58	61

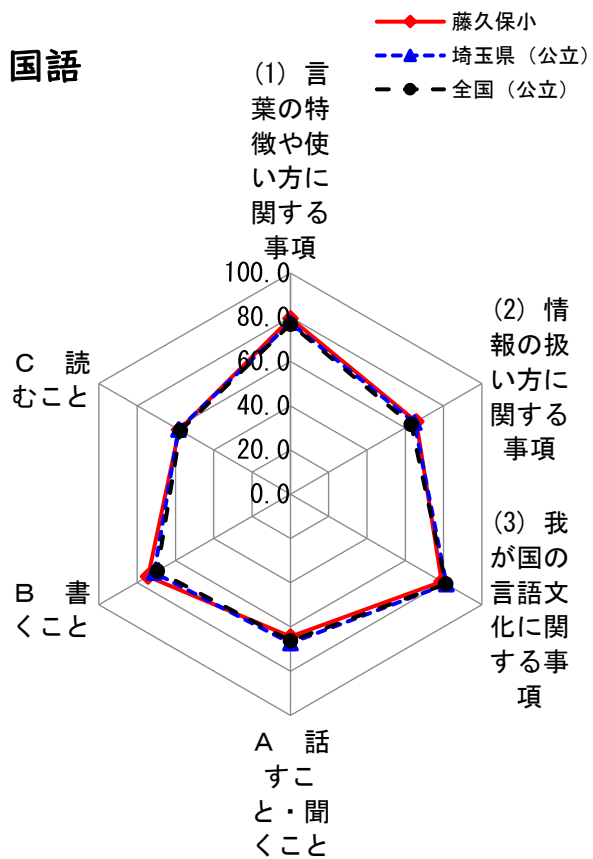
（2） 学習状況（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の割合） ※一部抜粋

単位（％）

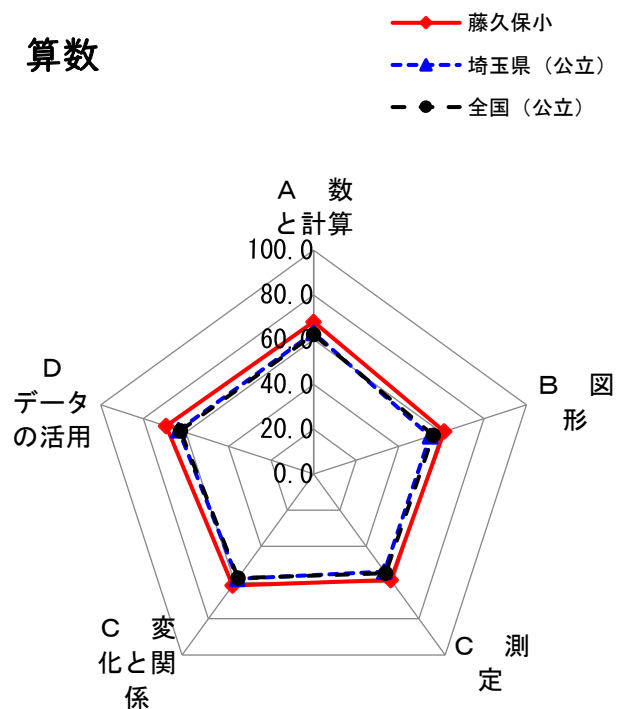
質問項目	全国	埼玉県	藤久保小
1 学校に行くのは楽しいと思いますか	86.5	88.4	90.7
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	81.9	83.9	82.4
3 自分には、よいところがあると思いますか	86.9	88.5	88
4 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.9	94.8	95.4
5 将来の夢や目標を持っていますか	83.1	84.7	88
6 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.2	97.4	100
7 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	70.6	75.5	68.5
8 友達関係に満足していますか	91.7	92.7	92.6
9 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	83.3	89.3	87
10 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	88	91.5	85.1
11 国語の勉強は好きですか	58.3	59.3	48.2
12 算数の勉強は好きですか	57.9	58.7	59.2

3 分析結果と課題

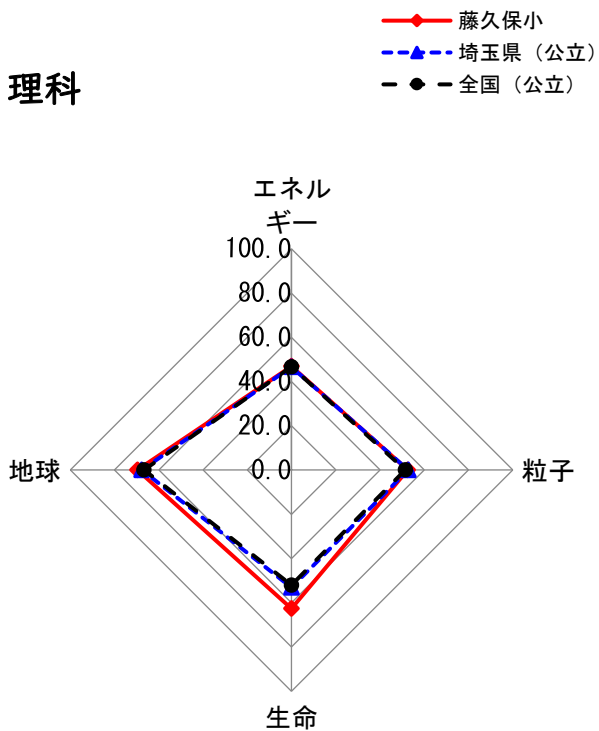
国語



算数



理科



【国語】

- ・国語の平均正答率は68%で、全国平均の66.8%を上回っている。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」が正答率 79.5% と、全国平均 (76.9%) を上回っている。
- ・「書くこと」が正答率 66.7% と、全国平均 (61.3%) を大きく上回っており、特に「目的や意図に応じて詳しく書く」問題がよくできている。記述式問題での正答率が高い。

【算数】

- ・算数の平均正答率は64%で、全国平均の58%を大きく上回っている。
- ・全分野で全国平均を上回っており、基本的な知識・技能がしっかりと定着している。
- ・「数と計算」が正答率 68%で、全国平均 (62.3%) を大きく上回っている。特に、「異分母の分数の加法計算」は正答率 92.4% と非常に高く、基礎的な計算力が定着していることがうかがえる。

【理科】

- ・理科の平均正答率は61%で、全国平均の 57.1%を上回っている。
- ・「生命」を柱とする領域は正答率 62.6%と、全国平均 (58%) を大きく上回っており、生物の観察や知識に関する理解が深いことがわかる。
- ・「地球・粒子・エネルギー」を柱とする領域は正答率が全国・県平均とほぼ同程度であり、こちらも高い水準を維持している。

4 課題の具体的解決策

【国語】

- ・教科書の内容や社会的な事象について、児童同士が活発に意見交換する機会を増やす。ペアトークやグループでの話し合いの機会を意図的に設ける。
- ・自分の考えを明確に発表させるとともに、他者の発表を聞いて気づいた点や疑問点を積極的にフィードバックする活動を取り入れる。これにより、聞く力と論理的な思考力を養う。
- ・ディスカッションやディベート等を積極的に取り入れることで、異なる立場の人になりきって話し、相手の意図を汲み取る力を育てる。

【算数】

- ・分数のたし算を計算式だけでなく、ピザやケーキの模型、積み木など視覚教材や具体物の活用を使って視覚的に理解させる。
- ・「なぜこの式になるのか」「どうしてこの答えになるのか」を自分の言葉で説明する時間を設ける。ノートやタブレットに言葉や図で考えをまとめさせる。
- ・文章題や図形問題など、計算だけでなく思考力を問う問題を積極的に取り入れ、多様な能力を組み合わせることで解決する力を高める。

【理科】

- ・教科書通りの手順を踏むだけでなく、「どうすればもっと正確な結果が得られるか」など、児童自身が疑問をもち、実験計画を立てる活動を増やす。
- ・実験の結果だけでなく、「なぜそうなるのか」「次はどうすればよいか」という考察を詳細に記録する学習習慣をつけさせる。
- ・自分の立てた実験計画や考察結果をクラス全体で発表し、議論する機会を設けることで、論理的に思考し、表現する力を養う。
- ・日常生活の中で生まれる「なぜ？」を科学的な視点で考え、実験で検証する学習等を取り入れる。

埼玉県学力・学習状況調査結果報告（藤久保小学校）

1 調査目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 調査結果

(1) 学力（平均正答率）

単位（％）

小学校4年生	埼玉県	三芳町	藤久保小学校
国語	52.5	51.8	53.7
算数	66.2	65.3	67.6

小学校5年生	埼玉県	三芳町	藤久保小学校
国語	62.8	61.4	64.1
算数	48.3	49.4	52.2

小学校6年生	埼玉県	三芳町	藤久保小学校
国語	59.3	59.9	64
算数	52.4	55.9	64.4

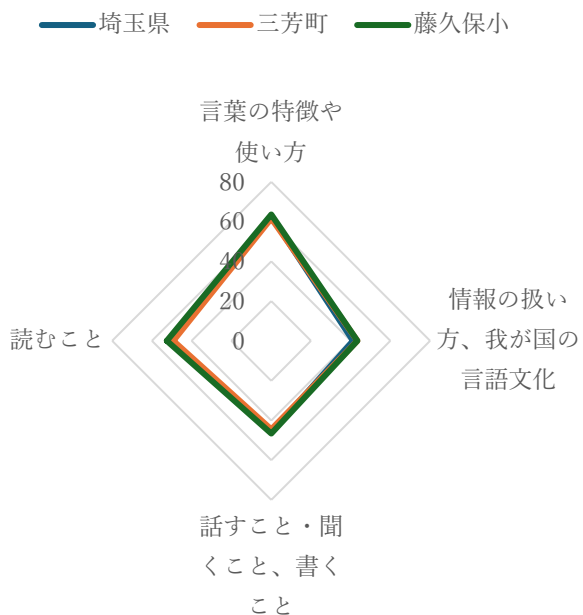
(2) 学習状況（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の割合） ※一部抜粋

単位（％）

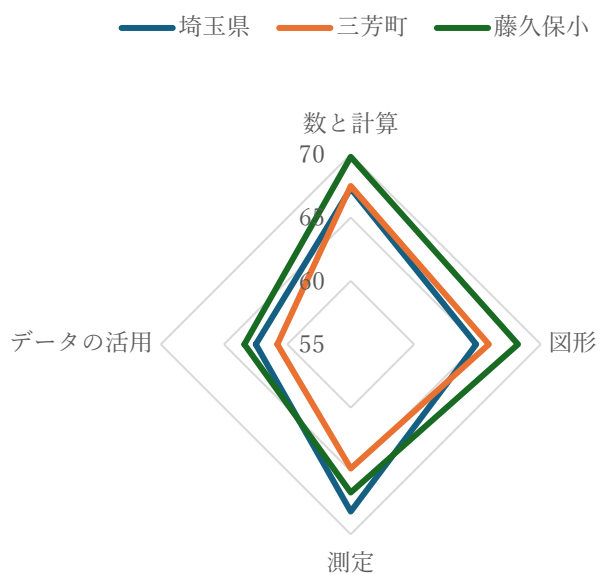
質問項目	4年	5年	6年
1 学級での生活は楽しかったですか	96.1	93.1	95.3
2 将来の夢や目標をもっていますか	94.6	83.6	85.2
3 相手の顔を見て、はっきり挨拶をすることができますか	89.9	87.1	85.1
4 相手の気持ちを考え、優しい言葉遣いができますか	93.1	87.1	89.8
5 自分には、よいところがあると思いますか	89.2	83.6	78.7
6 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか	97.7	94.8	96.3
7 学校の友達は自分のよいところを認めてくれましたか	94.5	89.6	93.5
8 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う	78.3	81.9	85.2
9 勉強していてわからないところがあったら、先生に聞く	74.4	63.8	67.5
10 1か月に、何冊くらいの本を読みますか（1冊以上）	79.9	74.9	76
11 今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心をもっていますか	80.6	72.4	64.8
12 進んで掃除をし、自分の担当場所をきれいにすることができますか	96.9	88	93.5

3 分析結果と課題

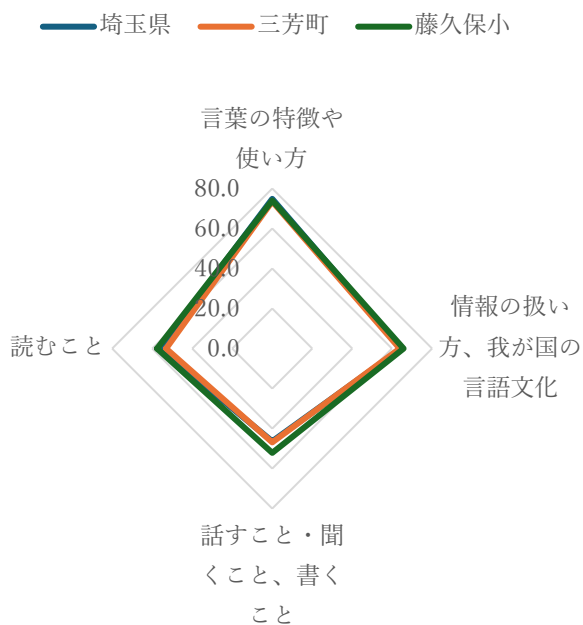
4 年国語



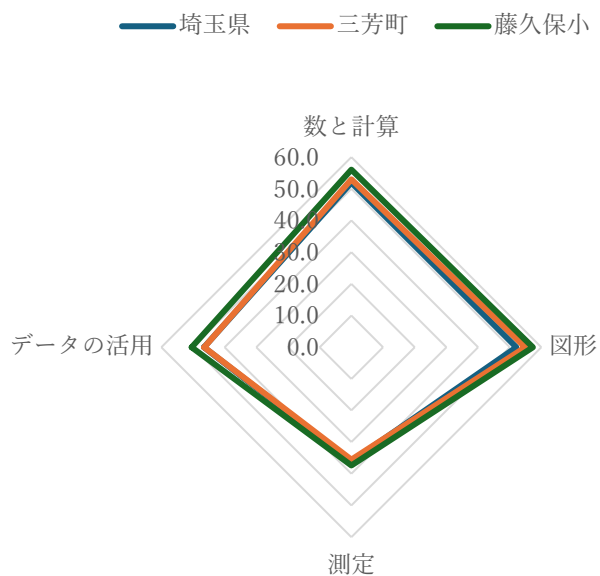
4 年算数

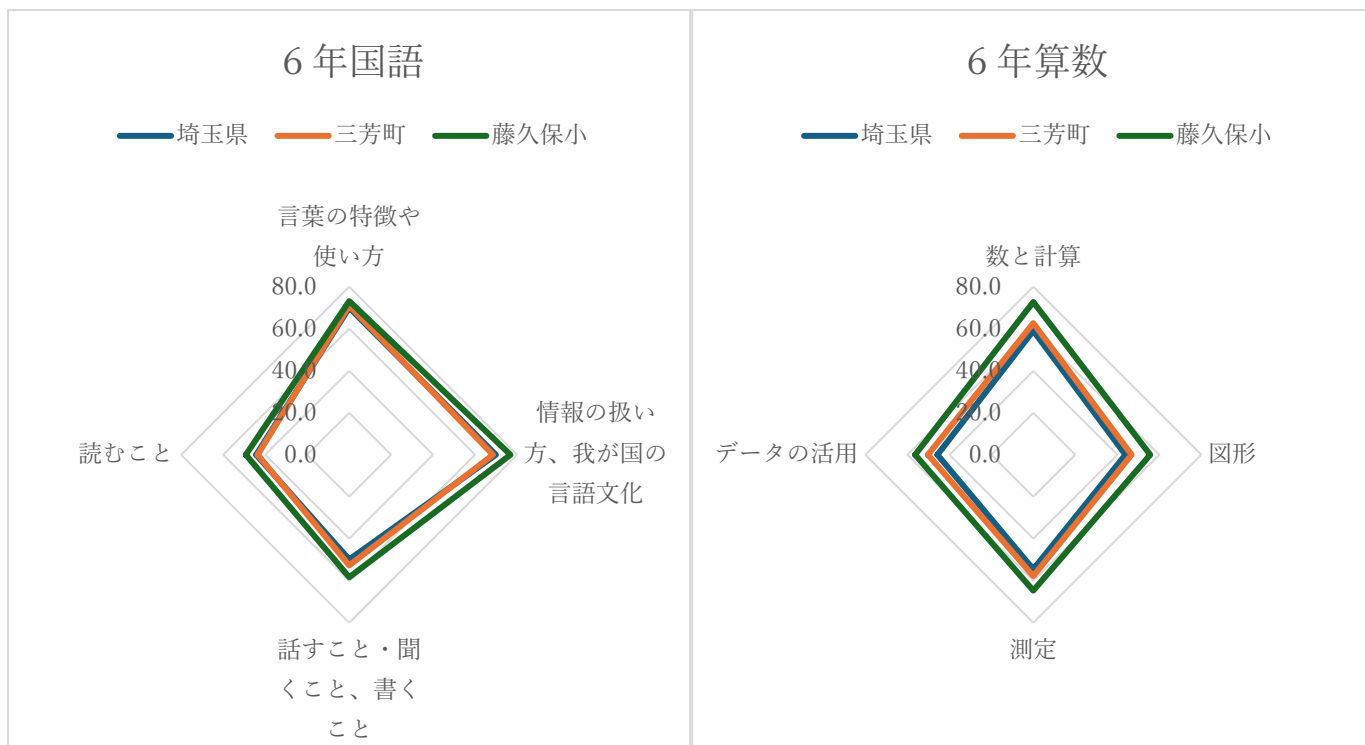


5 年国語



5 年算数





【4年国語】 好意度は低い

- ・平均正答率は53.7%で、埼玉県の平均(52.5%)と三芳町の平均(51.8%)を上回っている。
- ・「読むこと」の正答率は埼玉県と三芳町の平均を1～2ポイント上回っている。
- ・「言葉の特徴や使い方」と「情報の扱い方、我が国の言語文化」、「書くこと」の正答率は埼玉県と三芳町の平均とほぼ同等。

【4年算数】 好意度は高い

- ・平均正答率は67.6%で、埼玉県の平均(66.2%)と三芳町の平均(65.3%)を上回っている。
- ・「数と計算」と「量と測定」の正答率は埼玉県と三芳町の平均を1～2ポイント上回っている。
- ・「図形」と「数量関係」の正答率は埼玉県と三芳町の平均を2～4ポイント上回っている。

【5年国語】 好意度は埼玉県の平均とほぼ同等

- ・平均正答率は64.1%で、埼玉県の平均(62.8%)と三芳町の平均(61.4%)を上回っている。
- ・「言葉の特徴や使い方」と「情報の扱い方、我が国の言語文化」の正答率は埼玉県の平均とほぼ同等。
- ・「読むこと」の正答率は、埼玉県と三芳町の平均を1～2ポイント上回っている。
- ・「書くこと」の正答率は埼玉県と三芳町の平均を2～3ポイント上回っている。

【5年算数】 好意度は高い

- ・平均正答率は52.2%で、埼玉県の平均(48.3%)と三芳町の平均(49.4%)を上回っている。
- ・「数と計算」の正答率は、埼玉県と三芳町の平均を5ポイント以上、上回っている。
- ・「量と測定」、「図形」、「数量関係」の正答率も埼玉県と三芳町の平均を3～5ポイント上回っている。

【6年国語】 好意度は低い

- ・平均正答率は64%で、埼玉県の平均(59.3%)と三芳町の平均(59.9%)を上回っている。
- ・「言葉の特徴や使い方」、「情報の扱い方、我が国の言語文化」、「書くこと」の正答率は、埼玉県と三芳町の平均を3～5ポイント上回っている。
- ・「読むこと」の正答率は、埼玉県と三芳町の平均を2～3%上回っている。

【6年算数】 好意度は埼玉県の平均とほぼ同等

- ・平均正答率は64.4%で、県平均(52.4%)と市町村平均(55.9%)を大きく上回っている。
- ・「数と計算」の正答率は、埼玉県の平均を10ポイント近く上回っている。

- ・「量と測定」、「図形」、「数量関係」の正答率も埼玉県と三芳町の平均5ポイント以上、上回っている。

4 課題の具体的解決策

【国語】

○記述力・要旨把握力の強化

- ・短めの説明文や物語文を読み、30字や50字といった字数制限を設けて要約する練習を継続的に行う。これにより、文章の要点を素早く見抜く力を養う。
- ・「なぜ主人公はそう考えたのか」、「そのときの気持ちはどのようなものか」など、文章の内容を深く読み取って記述する問題に特化して取り組む。解答のポイントを具体的に示し、「～から、～と考えた」「～だから、～と感じた」といった論理的な記述を促す。
- ・理科や社会科の文章を読む際にも、「この文章で最も大切なことは何か？」と問いかけ、要点をまとめる活動を取り入れる。これにより、教科を横断した記述力の向上を図る。

【算数】

○「数量関係」の応用力強化

- ・文章題を解く際に、図やグラフ、表などを書くことを徹底させる。例えば、割合の問題であれば「もとにする量」「くらべる量」「割合」の関係を線分図に繰り返し表すことで、式の立て方を視覚的に理解させる。
- ・いきなり数字で式を立てるのではなく、「(全体の人数)－(女子の人数)＝(男子の人数)」といったように、言葉で関係性を整理する習慣をつけさせる。これにより、文章の意図を正確に読み取り、論理的に考える力が養われる。
- ・単なる計算問題ではなく、「同じような考え方で解くことができる問題」を複数用意し、多様な角度からアプローチさせる。特に、グラフや表を読み解いて答えを導く問題、比例・反比例の関係を問う問題など、応用力を試す問題に重点的に取り組む。

5 おわりに

令和7年度の「全国学力・学習状況調査」、「埼玉県学力・学習状況調査」において藤久保小学校の児童たちは、小4から小6にかけて国語・算数ともに県平均を上回る素晴らしい結果を出すことができた。これは、児童一人ひとりの日々の努力はもちろん、学校と保護者、そして地域が一体となった教育活動の成果にほかならない。

この成果に満足することなく、私たちはさらなる学力向上を目指して、今回の分析と具体的な解決策を参考に、日々の授業や家庭学習、朝の自習に一層力を入れていく必要がある。